

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナール I 前 (Seminar 1) 2025011-056					担当教員	複数人		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	1	配当年次	1年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
<p>ホームルーム的役割を持ちつつ、(1)大学のスタディスキル基礎の習得、(2)数学的能力の向上、(3)「社会人基礎力」の向上、を目標とする授業である。</p> <p>(1)については、(A)大学の授業の受け方の理解、(B)大学の各種学習支援施設・サポートなどの活用法の理解など、(C)レポート・レジュメ作成法習得、を目指す。</p> <p>(2)については、米百俵ドリルの数学の活用などにより基礎計算の振り返りと定着を図る。</p> <p>(3)については、論理的思考トレーニングや SPI（推論等）活用の演習などに取り組む。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
<p>地域社会に貢献する姿勢/職業人として通用する能力/専門的知識・技能を活用する能力/コミュニケーション能力/情報収集・分析力を育成する授業である。</p>
③ 授業の進め方・指示事項
<p>毎回、配布資料により解説を行い、演習問題による理解の確認と知識定着を進める。期末試験に加えて数回の小テストにより、平素からの学びの成果を確認する。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
<p>「ゼミナール I 後」「キャンパスライフ入門」</p>
⑤ 標準的な達成レベルの目安
<p>(i) 大学のスタディスキル基礎を習得できた。</p> <p>(ii) 数学的能力が向上できた。</p> <p>(iii) 「社会人基礎力」を向上できた。</p>
⑥ テキスト（教科書）
<p>山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料・レジュメ等を配布する。</p>
⑦ 参考図書・指定図書
<p>佐藤智明, 矢島彰, 山本明志編(2014)『大学学びのことはじめ初年次セミナーワークブック 3 訂』ナカニシヤ。その他、新書リストの図書。</p>

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	レポート、レジュメ等	発表・実技	授業への参加・意欲	米百俵ドリル「数学」	合計
総合評価割合		8%	20%	20%	20%	20%	12%	100%
(i)大学のスタディスキル基礎			10%	20%	20%	20%		70%
(ii)数学的能力向上		8%					12%	20%
(iii)社会人基礎力			10%					10%
フィードバックの方法	小テストの採点結果、課題・発表等に対する評価は、その都度個別にフィードバックする。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
授業で取り組んだ各項目について、レポートやその他の課題等により随時習得度を確認しながら授業を進める。数学的能力の向上、スタディスキル基礎の習得、社会人基礎力の向上について、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	アイスブレイク、オリエンテーション、自己紹介	筆記用具	次回授業内容の予習課題への取り組み	60分
2	大学での学びの基本①（概要、施設等活用法）	筆記用具、教科書	予習課題への取り組み	90分
3	大学での学びの基本②（ノートのとり方）、スピーチの解説	筆記用具、教科書	ノート作成・スピーチ等の予習課題への取り組み、米百俵ドリル	90分
4	大学での学びの基本③（レポート作成法）、スピーチの実習	筆記用具、教科書	レポート作成・スピーチ準備の予習課題への取り組み	90分
5	大学での学びの基本④（レジュメ作成法）、レジュメを使ったスピーチの準備	筆記用具、教科書	レジュメ作成・スピーチ準備の予習課題への取り組み、米百俵ドリル	90分
6	大学での学びの基本⑤（論理的思考の解説）、レジュメを使ったスピーチの準備と練習	筆記用具、教科書	論理的思考・スピーチ準備の予習課題への取り組み	90分
7	大学での学びの基本⑥（論理的思考の演習）、レジュメを使ったスピーチ実習	筆記用具、教科書	論理的思考・スピーチ準備の予習課題への取り組み、米百俵ドリル	90分
8	基礎計算①、グループワーク・スピーチ実習等	筆記用具、教科書	基礎計算の予習課題への取り組み、スピーチ準備	90分

9	基礎計算②、グループワーク・スピーチ実習等	筆記用具、教科書	米百俵ドリル、基礎計算テストへの準備、スピーチ準備	90分
10	基礎計算③、グループワーク・スピーチ実習等	筆記用具、教科書	基礎計算テストへの準備、スピーチ準備	90分
11	基礎計算④、グループワーク・スピーチ実習等	筆記用具、教科書	米百俵ドリル、基礎計算テストへの準備、スピーチ準備	90分
12	基礎計算⑤、グループディスカッション①（解説・テーマ設定等）	筆記用具、教科書	基礎計算テストへの準備、グループディスカッション準備	90分
13	グループディスカッション②（準備、試行）	筆記用具、教科書	米百俵ドリル、グループディスカッション準備	90分
14	グループディスカッション③（実施、発表）	筆記用具、教科書	グループディスカッション準備	90分
15	全体の振り返り	筆記用具、教科書	各回授業のポイントの振り返り	90分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅠ後（Seminar 1） 2025011-057					担当教員	複数人		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	1	配当年次	1年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型 AL／協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
<p>ホームルーム的役割を持ちつつ、(1)調査研究の進め方、(2) 調査研究の成果表現法、(3)「社会人基礎力」向上、の実現を目標とする授業である。2年次以降の様々な専門授業において、調査研究を進めてその成果の取りまとめることができるようになることを目指す。</p> <p>(1)と(2)については、入門的な調査研究を進めて、期末にレジユメないしレポートを用意し、授業内でスピーチを実施すること目標とする。</p> <p>(3)については、前期ゼミに引き続き、社会人基礎力向上にむけたグループワーク等に取り組む。あわせて、米百俵ドリル等により国語・社会の基礎知識の醸成も図る。</p>
② ディプロマ・ポリシーとの関連
<p>地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。</p>
③ 授業の進め方・指示事項
<p>毎回、調査研究の進め方、成果の整理とプレゼンテーションなどに関して配布資料等により解説を行い、その内容にもとづいて各自が実践する。期末のレポート完成とプレゼンテーション実施に向けて、適宜課題を課し、平素からの学びの成果を確認する。米百俵ドリルなどを用いた時間外の課題へも取り組む。</p>
④ 関連科目・履修しておくべき科目
<p>「ゼミナールⅠ前」「キャンパスライフ入門」「キャリア開発Ⅰ」</p>
⑤ 標準的な達成レベルの目安
<p>(i) 調査研究の進め方を習得し、調査研究のレポートないしレジユメを作成できた。</p> <p>(ii) 調査研究の成果をスピーチにより発表できた。</p> <p>(iii) 「社会人基礎力」および国語・社会の基礎知識を向上した。</p>
⑥ テキスト（教科書）
<p>山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料・レジユメ等を配布する。</p>
⑦ 参考図書・指定図書
<p>佐藤智明,矢島彰,山本明志編(2014)『大学学びのことはじめ初年次セミナーワークブック 3 訂』ナカニシヤ。その他、新書リストの図書。</p>

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法							
具体的な学習到達目標	試験	振り返り 小テスト 等	課題	レポート /レジュ メ	授業での 発表、参加 意欲等	その他 (米百俵 ドリル)	合計
総合評価割合			40%	20%	28%	12%	100%
(i) 調査研究の進め方の習得と実践			20%		10%		30%
(ii) 調査研究の成果とりまとめと発表			20%	20%	10%		50%
(iii) 「社会人基礎力」、国語・社会の基礎知識向上					8%	12%	20%
フィードバックの方法	課題・発表等に対する評価は、その都度個別にフィードバックする。						

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
各自が2年次以降の様々な専門授業において調査研究を進める能力を醸成できるよう、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	オリエンテーション、自己紹介	筆記用具	次回授業内容の予習課題への取り組み グループワークの準備	60分
2	課題発見力①（概要、課題発見の方法、研究の問の立て方）、グループワーク/ディスカッション（その1）	筆記用具、教科書	レポートで取り組む分野・範囲を絞る。テーマを検討する。 米百俵ドリル①	90分
3	課題発見力②（テーマ設定）	筆記用具、教科書	各自がレポートで取り組む分野・範囲を絞りテーマを検討する。 米百俵ドリル②	90分
4	情報収集法①（概要、文献検索と情報収集）	筆記用具、教科書	授業で取り上げた情報収集法によりレポートテーマに関連する情報を収集する。 グループワークの準備 米百俵ドリル③	90分
5	情報収集法②（図書館活用法、	筆記用具、教科	授業で取り上げた情報収集法によ	90分

	インターネット情報活用法) グループワーク／ディスカッション (その2)	書	りレポートテーマに関連する情報を収集する。 米百俵ドリル④	
6	情報収集法③ (ヒアリング、アンケート等の調査法について)	筆記用具、教科書	授業で取り上げた調査法 (ヒアリング、アンケート等) の復習 米百俵ドリル⑤	90分
7	情報整理法 (概要、書類等の整理と管理、PC による情報管理法)	筆記用具、教科書	Word、Excel 等を活用し、これまで収集したレポート関連の情報を整理する。 グループワークの準備 米百俵ドリル⑥	90分
8	データ分析法① (基本的なグラフ作成、グラフ読み取り) グループワーク／ディスカッション (その3)	筆記用具、教科書	グラフに関する授業内容の復習とグラフ作成の課題に取り組む。 米百俵ドリル⑧	90分
9	データ分析法② (統計の基本：代表値について)	筆記用具、教科書	代表値等に関する授業内容の復習と関連の課題に取り組む。 米百俵ドリル⑨	90分
10	データ分析法③ (統計の基本：ちらばり等について)	筆記用具、教科書	ちらばり等に関する授業内容の復習と関連の課題に取り組む。 グループワークの準備 米百俵ドリル⑩	90分
11	データ分析法④ (統計の基本：数値データの処理のまとめ) グループワーク／ディスカッション (その4)	筆記用具、教科書	データ処理に関する授業内容の復習と関連の課題に取り組む。 米百俵ドリル⑪	90分
12	レポート作成とプレゼンテーションの準備① (レポート作成法の振り返りと実践)	筆記用具、教科書	レポート作成法の振り返り、レポート作成。 米百俵ドリル⑫	90分
13	レポート作成とプレゼンテーションの準備② (プレゼンテーションの準備、レジュメ作成法の振り返りと実践)	筆記用具、教科書	レポート作成の継続、プレゼンテーションの内容・組み立ての検討、レジュメ作成の準備	90分
14	レポート作成とプレゼンテーションの準備③ (プレゼンテーション内容の組み立て、レジュメ作成、発表練習)	筆記用具、教科書	レポート作成の継続、プレゼンテーションの内容・組み立ての検討、レジュメ作成	90分

15	レジюмеに基づいた調査レポートの発表、全体振り返り	筆記用具、教科書	レポートとレジюмеの完成、発表練習、これまでの授業のポイントの振り返り	90分
----	----------------------------	----------	--------------------------------------	-----

⑪ アクティブラーニングについて				
知識定着・確認型 AL/協同学修型 AL を採用する。				

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目				
実務経験の概要				
実務経験と授業科目との関連性				

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅡ前（SeminarⅡ） 2025022-058					担当教員	複数人		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	1	配当年次	2年次	開講期	前期
科目特性	知識定着・確認型 AL / 協同学修型 AL								

① 授業のねらい・概要
ホームルーム的役割を持ちつつ、1年次のゼミナールⅠ前・後で修得した知識と能力を土台として、(1)文章作成能力の向上、(2)適切な情報収集法の修得、(3)自己表現力の向上、を目標とする授業である。(1)(2)については、文章の書き方の基本、情報収集法の学修、レポート・レジュメと論文の作成法の基本、基本論理思考トレーニング等に取り組む。(3)については、ディスカッション、スピーチ、プレゼンテーション、などに取り組む。
② ディプロマ・ポリシーとの関連
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。
③ 授業の進め方・指示事項
ゼミナールⅡ後における修了レポートの作成につながる授業として、文章作成能力の基礎を固めることが重要な目標となる授業である。
④ 関連科目・履修しておくべき科目
ゼミナールⅠ前、ゼミナールⅠ後
⑤ 標準的な達成レベルの目安
(i) 文献等で調べた内容を文章・レジュメにまとめることができる。 (ii) 論文（修了レポート）作成手法の基本を理解し説明できる。 (iii) 論文（修了レポート）の構成・概要を整理しスピーチにより他者に伝えることができる。
⑥ テキスト（教科書）
山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料・レジュメ等を配布する。
⑦ 参考図書・指定図書
授業において適宜紹介する。

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	修了レポート構成等	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			25%	30%	20%	25%		100%
(i) 文献等で調べた内容を文章にまとめる			15%	15%		10%		40%
(ii) 論文作成手法の基本				15%		10%		25%
(iii) 論文の構成・概要を整理しスピーチ			10%		20%	5%		35%
フィードバックの方法	提出された課題、レジュメ、レポート等に助言をつけて返却する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
ゼミナールⅡ後における修了レポート（論文）作成に取り組むために必要な能力をしっかりと培うことが重要な目標になる。文章作成能力の向上のみならず、自己表現力全般と社会人基礎力の向上についても、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション、スケジュール、学習内容の確認	教科書	学習内容に関するレポート	120分
2	スピーチ、レジュメの書き方	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
3	スピーチ、レポート作成能力向上（文献・資料引用上の注意）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
4	レジュメを用いた討論	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
5	スピーチ、レポート作成能力向上（引用・参考の方法）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
6	レジュメを用いた討論	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
7	スピーチ、レポート作成能力向上（引用・参考の方法）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
8	情報収集トレーニング	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
9	スピーチ、レポート作成能力向上（テーマ設定）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分

10	レジユメを用いた討論スピーチ・レポート作成能力向上（テーマの発表）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
11	スピーチ、レポート作成能力向上（テーマの発表）	教科書・配布資料・課題資料	復習と資料関連レポート	120分
12	スピーチ、レジユメを用いた討論	教科書・配布資料・課題資料	復習と報告の準備	120分
13	スピーチ、レポート作成能力向上（修了レポート予定内容・構成の報告）	教科書・配布資料・課題資料	復習と修正報告の準備	120分
14	スピーチ、レポート作成能力向上（修正の報告）	教科書・配布資料・課題資料	復習と修了レポート準備	120分
15	全体の振り返り、後期ゼミの準備について	教科書・配布資料・課題資料	復習と修了レポート準備	120分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL、協同学修型 AL を採用する。レジユメや修了レポート作成で、教員が修正点を指摘しレベルアップを促す。スピーチ、プレゼンテーション、討論においても、教員がコメントを行うことで能力向上を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性

令和3（2021）年度 長岡大学シラバス

授業科目名 科目コード	ゼミナールⅡ後（SeminarⅡ） 2025022-059					担当教員	複数人		
科目区分	ゼミナール科目	必修・ 選択区分	必修	単位数	1	配当年次	2年次	開講期	後期
科目特性	知識定着・確認型AL / 協同学修型AL								

① 授業のねらい・概要									
ホームルーム的役割を持ちつつ、1年次のゼミナールⅠ前・後と2年次前期のゼミナールⅡ前で修得した知識と能力を土台として、(1)情報収集能力と文章作成能力の向上、(2)自己表現力の向上、(3)論文作成能力の向上、を目標とする授業である。(1)については、情報収集の実践、文章作成の訓練、レポート作成等に取り組む。(2)については、ディスカッションやスピーチに取り組む。(3)については、修了レポートの完成に取り組む。									
② ディプロマ・ポリシーとの関連									
地域社会に貢献する姿勢／職業人として通用する能力／専門的知識・技能を活用する能力／コミュニケーション能力／情報収集・分析力を育成する授業である。									
③ 授業の進め方・指示事項									
ゼミナールⅡ前において培った文章作成能力を発展・応用し、その成果として修了レポートを完成させる事が中心的な目標となる授業である。									
④ 関連科目・履修しておくべき科目									
ゼミナールⅠ前、ゼミナールⅠ後、ゼミナールⅡ前									
⑤ 標準的な達成レベルの目安									
(i) 文献等で調べた内容を適切に文章にまとめることができる。 (ii) 論文（修了レポート）作成の進捗や成果を他者に説明できる。 (iii) 論文（修了レポート）を完成し、調査・研究の成果をまとめることができる。									
⑥ テキスト（教科書）									
山田剛史・林創（2011）『大学生のためのリサーチリテラシー入門』ミネルヴァ書房、その他、必要に応じて資料・レジュメ等を配布する。									
⑦ 参考図書・指定図書									
授業において適宜紹介する。									

⑧ 学習の到達目標とその評価の方法、フィードバックの方法								
具体的な学習到達目標	試験	小テスト	課題	修了レポート	発表・実技	授業への参加・意欲	その他	合計
総合評価割合			20%	40%	20%	20%		100%
(i) 文献等で調べた内容を文章にまとめる			10%			10%		20%
(ii) 論文作成の進捗や成果の他者への説明			10%		20%	10%		40%
(iii) 論文（修了レポート）の完成				40%				40%
フィードバックの方法	提出された課題、レポート等に助言をつけて返却する。							

⑨ 担当教員からのメッセージ（昨年度授業アンケートを踏まえての気づき等）
3・4年次の専門的な学びのための論文作成能力の向上に向けて、修了レポート（論文）作成が最も重要な目標になる。学修内容の全般について、全ゼミで歩調を合わせて取り組んでいく。

⑩ 授業計画と学習課題				
回数	授業の内容	持参物	授業外の学習課題と時間（分）	
1	イントロダクション、スケジュール、前期ゼミの成果全般の確認	教科書	前期ゼミでの取り組み内容の確認	120分
2	スピーチ、修了レポートの概要報告	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
3	スピーチ、修了レポート概要の修正報告	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
4	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
5	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
6	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
7	スピーチ、修了レポート中間報告と討論	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
8	スピーチ、修了レポート中間報告と討論	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
9	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分

10	スピーチ、修了レポートの進捗報告と討論、個別の詳細指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート作成への取り組み	120分
11	修了レポート・プレゼンテーションの準備、個別指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの準備	120分
12	修了レポート・プレゼンテーションの準備、個別指導	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの準備	120分
13	修了レポート・プレゼンテーション	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの準備	120分
14	修了レポート・プレゼンテーション	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの振り返りの考察	120分
15	全体の振り返り	教科書・配布資料・課題資料	修了レポート・プレゼンテーションの振り返りの考察	120分

⑪ アクティブラーニングについて

知識定着・確認型 AL、協同学修型 AL を採用する。修了レポートの作成において、教員が修正点を指摘しレベルアップを促す。スピーチ、プレゼンテーション、討論においても教員がコメントを行うことで能力向上を図る。

※以下は該当者のみ記載する。

⑫ 実務経験のある教員による授業科目

実務経験の概要

実務経験と授業科目との関連性